

河北町立小学校のあり方について (答申)

令和5年12月14日

河北町立小学校のあり方検討委員会

目 次

I	本町の小学校のあり方検討の必要性について	1
II	検討結果	2
III	今後に向けて	3
IV	資料	5
	資料 1 河北町立小学校のあり方について(諮問)	6
	資料 2 「河北町立小学校のあり方検討委員会」委員名簿	7
	資料 3 「河北町立小学校のあり方検討委員会」の会議内容	8
	資料 4 河北町立小学校の再編の参考資料 (令和5年6月9日第4回検討委員会資料)	11
	資料 5 学校施設と児童数・教員数	11
	資料 6 「河北町立小学校のあり方に関するアンケート調査」結果 (令和4年8月31日第2回検討委員会資料)	12
	参照資料 文部科学省「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」	

I 本町の小学校のあり方検討の必要性について

1 本町の学校のあり方に係る課題について

課題の1つ目は、児童数の減少と各学校の人数のアンバランスです。本町の児童数の長期的な推移については、今後とも減少傾向が続くものと見込まれ、令和3年度の児童数は817人で、平成23年度の1,026人から209人の減となり、減少率は10年間で20.4%でした。令和9年度の児童数の見込みは639人で、令和3年度に比べ178人の減で、減少率は6年間で21.8%の予定です。また、学校規模の適正化については、標準規模の学校は谷地中部小学校のみとなり、1学級当たりの人数も複数校で複式学級が出現する可能性があるなど、今後、各校間の差が顕著になる見込みです。[資料6](#)

この児童数の急激な減少は、学校における教育活動のみならず、その他の集団活動を行う上で課題となっております。

2つ目は、学校施設の老朽化です。今後昭和60年代から平成10年代にかけて建築された学校施設が一斉に更新時期を迎えようとしており、学校施設を効果的に整備していくことが求められています。[資料5](#)

これらのことを踏まえ、各小学校の特色ある教育活動のよさや課題、そして保護者や地域の思い、教育を取り巻く環境の動向等を勘案し、課題に対して検討をしていく必要性があります。

2 「河北町立小学校のあり方検討委員会」経過

平成28年に第2次教育振興計画策定の際、河北町立小学校の教育環境についてアンケートを実施しました。その結果を受け、小学校就学年齢人口の動向を見ながら今後の教育行政の方向性を定めるために、「小学校の将来を考える会」を組織されました。その会では、学区再編の必要性、児童数や学級数の不均衡の解消、通学距離の適正化等について検討し、多くの意見や提言がありました。「地域の理解なしに統合はないこと」、「町民への周知を行い、理解を深めること」が今後必要であることが示されました。

令和4年の第2次教育振興計画後期計画の策定では、教育を取り巻く社会的な課題を踏まえて今後5年間の施策として、児童数の減少による子どもたちの学びの環境の改善の必要性が引き続き課題として挙げられました。そこで令和4年5月30日に「河北町立小学校のあり方検討委員会」（以下「検討委員会」）を立ち上げました。本町教育長から文書にて以下の2つについて諮問を受けました。

1 河北町立小学校の適正規模・適正配置について

2 河北町立小学校の今後のあり方や将来の学校像等に対する本町の基本的な方針について

なお、検討委員会は、各地区の代表、小中学校の保護者代表、こども園・幼稚園の保護者代表、放課後児童クラブ指導者、小中学校の校長、学識経験者の27名で構成しています。（令和5年度は28名）[資料1](#) [資料2](#)

検討委員会は以下のとおり実施しました。[資料3](#)

第1回検討委員会	令和4年5月30日	河北町役場 301 会議室
第2回検討委員会	令和4年8月31日	河北町役場 301 会議室
地区懇談会	令和4年9月22日～令和5年2月17日	各小学校区
第3回検討委員会	令和5年3月27日	河北町役場 301 会議室
第4回検討委員会	令和5年6月9日	河北町役場 301 会議室
第5回検討委員会	令和5年8月26日	どんがホール 町民参加型
第6回検討委員会	令和5年10月20日	河北町役場 301 会議室
第7回検討委員会	令和5年11月22日	河北町役場 301 会議室

本答申では、諮問の項目ごとに検討結果を以下の通りに取りまとめました。

II 検討結果

検討委員会では、7回にわたる会議を踏まえ、1校に統合する案、段階的に統合する案、現状を維持する案の3つについて、それぞれのメリット・デメリットを整理しました。その結果、1校に統合することが最適であるという検討結果になりました。以下、諮問のあった2点に沿って整理した内容を示します。

1 河北町立小学校の適正規模・適正配置について

(1) 学校規模

① 1学級数当たりの人数

現在、国では標準法*で、令和5年度は小学1年生から4年生まで35人以下としています。県教育委員会の施策では「教育山形さんさんプラン」として、1学級当たり21人～33人としており、子どもの社会性を育む観点として下限を設けています。アンケートでは、小学校の1学級で望ましい児童数は21人～30人という結果でした。おおむね国・県の施策の範囲が望ましいと考えます。

※公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律

② 学校の学級数

学級数に関しては、町内の西里小学校、溝延小学校、谷地南部小学校、北谷地小学校の4つの小学校において学年単学級となり、「人間関係の固定化」、「多様な考えに触れる機会がない」といった生活・学習環境が課題となっています。また、谷地西部小学校において、令和4年度から完全複式となり、前述の課題に合わせて、教員にとって特別の指導方法が必要になること、複数学年の授業の準備が必要になることや一人の抱える校務分掌が多いことなど業務負担も課題となっています。今後、令和6年度に北谷地小学校、令和8年度に西里小学校、令和9年度に溝延小学校にも複式学級の出現の可能性があります。児童の学びの環境の充実や教職員の負担軽減のためにも、クラス替えが可能なすべての学年において、複数学級となる学校規模の確保が必要と考えます。資料4

(2) 児童の実態に合わせた指導体制

① 多様な人間関係の構築

小学校の発達段階においては、社会性が身につく大切な時期になります。その為には、沢山のひとのかかわり、多様な考え方に触れる機会を意図的に整える必要があります。クラス替えができる学校規模は、より多くの人がかかわる教育活動が可能となり、互いに励ましあい、競い合い切磋琢磨できる教育環境をつくるのが期待できます。

② 多層的な支援体制

一定の学校規模があると、教員数が確保され、児童とかかわる教員が必然的に多くなります。複数の目で児童の姿を見ることができれば、児童理解がより深まります。また、習熟度別、個別の配慮・専科指導など多様な教育活動が展開できます。

③ 安心・安全な学校

学校の危機管理体制を考えたとき、事案発生時に役割分担を明確にした組織的な体制で対応することができます。

(3) 地域と学校のつながり

児童数の減少や継承の担い手不足などにより、現在の学校規模では、地区の伝統を継承できる取り組みが縮小している状況です。河北町全域を一つととらえ、教育活動に取り入れることでどの地区に住んでいる児童も幅広く地区の行事に触れることができます。

(4) 教職員の資質向上

① 授業力・専門性の向上

教員が少ないと学年の授業準備や教材研究を一人で行うことが多くなります。一方、教員が多数いると学年部会や教科部会、校務分掌等において組織的に実施でき、複数の視点で見た教材研究や学年間にわたる系統的な学習に取り組むことができます。児童の実態に沿った、つきたい力を明確にした授業づくりの推進につながります。

② メンターチーム※による組織的対応

近年、若い教職員が増えており、今後もその傾向が続きます。授業の準備はもちろんですが校務分掌や保護者対応など経験を必要とする分野も多くなります。一人で抱え込まないようにするために、複数の教員でチームを組み、組織的に対応していくことが、教員を育て心身の健康をも保つことができます。

※互いの資質・能力を高める、人材育成システムのこと

2 河北町立小学校の今後のあり方や将来の学校像に対する本町の基本的な考え方

(1) 小学校の施設・整備について

児童の学びの環境を整えるために、以下の点について実現を求めます。

- ① 校舎を新設し、中学校との一貫した教育活動が展開できるようにすること。あわせて県立谷地高等学校と連携し、特色ある河北町の教育を推進すること。
- ② 児童生徒、教職員が過ごしやすい、ゆとりある環境（緑・水・休憩場所）、かつエコロジーに配慮した校舎を整備すること。
- ③ 校内に適応指導教室や個別指導・相談に対応できる教室を設けるなど、教育相談機能の充実を図ること。
- ④ 児童生徒、教職員が互いに学びあえる教育環境（教材・教具・ICT機器等）の充実を図ること。
- ⑤ 児童生徒が伸び伸びと運動や文化活動に取り組めるとともに、中学校部活動の地域移行を踏まえた体育・文化施設を設けること。
- ⑥ 地域との連携を図ること（学校運営協議会・地域学校協働本部）、地域コミュニティの拠点となる施設を整備すること。
- ⑦ ⑤⑥など、地域活動の利用に配慮された施設にすること。
- ⑧ 多様性に配慮した校舎にすること。（バリアフリー、エレベーター、トイレ、更衣室等）
- ⑨ 防災機能を持ち、避難所や地域の防災拠点として活用できる施設を整備すること。
- ⑩ 安心安全でおいしい給食が提供できるようにすること。

(2) 特色ある教育の創出

確かな学力を育成し、予測不能な未来を生き抜くために以下の点について実現を求めます。

- ① 新しい教育への対応・学習指導要領に対応した「生きる力を育む」教育活動の推進
- ② 児童の資質・能力を引き出し、伸ばす授業づくり・担任力の育成
- ③ 地域と連携した教育活動の推進（学校運営協議会・地域学校協働活動の一体的推進）
 - ・地域素材を生かしたふるさと学習
 - ・各学区の伝統と良さを引き継ぐ学習の充実
- ④ 多様な学習活動の実践
 - ・ICTの利活用
 - ・英語教育の推進
 - ・幼小中中高の連携
 - ・地域に根差したキャリア教育
 - ・体力向上の取り組み
 - ・自然を生かした環境教育

(3) 教育課題に対する対応

一人一人がのびのびと自己実現できるように、安心・安全な学校生活を送れるように以下の点に

ついて求めます。

- ① いじめ・不登校のない学校づくりを行うこと。
- ② 問題行動が発生した場合は、適切かつ迅速な対応をとること。
- ③ 個別に支援が必要な児童生徒への配慮を行うこと。
- ④ 多様性への理解とよりよい人間関係づくりに向けた教育活動を行うこと。
- ⑤ 発達障がいに対する理解を図ること、インクルーシブ教育を推進すること。
- ⑥ 教職員の時間外勤務時間の削減など、労働環境の改善を図ること。

(4) 通学手段について

スクールバス、路線バスを活用するなど、文部科学省が示す通学時間*の範囲内になるように取り組むこと。

※60分以内

(5) まちづくりとの連動について

既存校舎の利活用について、地域の考えを十分に踏まえながら、関係各課との連携を図り、その活用方法について検討すること。あわせて、地域コミュニティの拠点としての機能を持ち、地域の活性化につなげること。

(6) 学童との連携について

放課後児童クラブについては、既存校舎の利活用も含め、関係各課との連携を図り、そのあり方について今後も検討していくこと。

(7) 義務教育学校の構想

本町が取り組んでいる小小、小中連携の視点から義務教育学校も一つの統合の形と考えられます。しかし、義務教育学校を導入した場合、学校規模が大きくなるため、今回の答申で目指す学校像の実現に向け課題が多く残ります。導入については検討を要します。

Ⅲ 今後に向けて

検討委員会では、急激な児童数の減少を迎えるなか、本答申が今後策定される整備計画や令和9年度からはじまる第3次河北町教育振興計画に反映され、これからの河北町を担う子どもたちにとって最適な学びの環境を構築するために、できるだけ早い統合の実施に向けた取り組みを期待します。また、児童同士のつながりが深まるような教育活動を子どもたちと共に考え、各学校間の教育課程を調整し、交流学習等を計画的に実施することや統合に向けての人的配慮等を行い、スムーズに統合ができるように配慮をお願いしたい。

IV 資料

令和 4 年 5 月 3 0 日

河北町立小学校のあり方
検討委員会委員長 様

河北町教育委員会
教育長 板坂 憲助

河北町立小学校のあり方について（諮問）

本町では、少子化の進展等に伴い、児童数の長期的な推移については今後とも減少傾向が続くものと見込まれ、このことは、学校における教育活動のみならず、その他の集団活動を行う上で課題となっています。また今後、昭和 6 0 年代から平成 1 0 年代にかけて建築された学校施設が一斉に更新時期を迎えようとしており、学校施設を効率的かつ効果的に整備していくことが求められています。

これらのことを踏まえ、各町立小学校の特色ある教育活動のよさや課題、そして保護者や地域の思い、教育を取り巻く環境の動向等を勘案しながら、河北町立小学校のあり方に関する下記の事項について諮問いたします。

記

諮問事項

- 1 河北町立小学校の適正規模・適正配置について
- 2 河北町立小学校の今後のあり方や将来の学校像等に対する本町の基本的な方針について

資料 2

令和4年度河北町立小学校のあり方検討委員会委員名簿

No.	氏名	委員区分
1	後藤 貞義	地区住民代表
2	眞木 孝佳	地区住民代表
3	大熊 孝幸	地区住民代表
4	山田 剛	地区住民代表
5	岡崎 喜代高	地区住民代表
6	砂田 哲	地区住民代表
7	岡崎 マナブ	各学校の保護者代表
8	江目 恭一	各学校の保護者代表
9	和田 弥寿子	各学校の保護者代表
10	布川 潤一	各学校の保護者代表
11	堀米 亮平	各学校の保護者代表
12	八矢 悠輔	各学校の保護者代表
13	杉浦 眞美	各学校の保護者代表
14	加藤 桂三	各こども園・幼稚園保護者代表
15	浅黄 茂俊	各こども園・幼稚園保護者代表
16	村田 直樹	各こども園・幼稚園保護者代表
17	青柳 宏明	各こども園・幼稚園保護者代表
18	吉田 玲子	学童クラブ指導者代表
19	渡部 美香	学童クラブ指導者代表
20	石澤 友章	各小中学校長
21	小林 聡	各小中学校長
22	丹野 宏紀	各小中学校長
23	小山田 聡	各小中学校長
24	須藤 里佳	各小中学校長
25	大泉 裕之	各小中学校長
26	鈴木 和彦	各小中学校長
27	眞木 吉雄	学識経験者
事務局	板坂 憲助	教育長
	秋場 弘昭	学校教育課長
	吉田 仁志	教育主幹
	大泉 雅志	課長補佐
秋葉 千絵	指導主事	

令和5年度河北町立小学校のあり方検討委員会委員名簿

No.	氏名	役職
1	後藤 貞義	地区住民代表
2	佐藤 眞潮	地区住民代表
3	大熊 孝幸	地区住民代表
4	山田 剛	地区住民代表
5	岡崎 喜代高	地区住民代表
6	砂田 哲	地区住民代表
7	岡崎 マナブ	各学校の保護者代表
8	江目 恭一	各学校の保護者代表
9	和田 弥寿子	各学校の保護者代表
10	布川 潤一	各学校の保護者代表
11	堀米 亮平	各学校の保護者代表
12	八矢 悠輔	各学校の保護者代表
13	杉浦 眞美	各学校の保護者代表
14	加藤 桂三	各こども園・幼稚園保護者代表
15	浅黄 茂俊	各こども園・幼稚園保護者代表
16	村田 直樹	各こども園・幼稚園保護者代表
17	青柳 宏明	各こども園・幼稚園保護者代表
18	吉田 玲子	学童クラブ指導者代表
19	渡部 美香	学童クラブ指導者代表
20	須藤 里佳	各小中学校長
21	小林 聡	各小中学校長
22	丹野 宏紀	各小中学校長
23	小山田 聡	各小中学校長
24	白田 敏幸	各小中学校長
25	安孫子 孝司	各小中学校長
26	鈴木 正直	各小中学校長
27	鈴木 和彦	学識経験者
28	眞木 吉雄	学識経験者
事務局	板坂 憲助	教育長
	秋場 弘昭	学校教育課長
	吉田 仁志	教育主幹
	古澤 悦子	係長
秋葉 千絵	指導主事	

資料3

第1回検討委員会 令和4年5月30日 河北町役場 301 会議室

河北町立小学校のあり方については平成29年に行われた「小学校の将来を考える会」や議会などでも話題になっておりました。近年の急激な少子化が進むなか、その流れは本町でも例外ではなく、児童数の長期的な推移については、今後とも減少傾向が続くものと見込まれ、このことは、学校における教育活動のみならず、その他の集団活動を行う上での課題であること、今後昭和60年代から平成10年代にかけて建築された学校施設を効果的に整備していくことから、各小学校の特色ある教育活動のよさや課題、そして保護者や地域の思い、教育を取り巻く環境の動向等を勘案しながら、河北町立小学校のあり方に関して

1 河北町立小学校の適正規模・適正配置について

2 河北町立小学校の今後のあり方や将来の学校像等に対する本町の基本的な方針について

の2点について教育長から、諮問を受けました。第1回検討委員会では、河北町立小学校のあり方に関するアンケートの内容について協議を行い、令和4年度のスケジュールを確認いたしました。

第2回検討委員会 令和4年8月31日 河北町役場 301 会議室

初めに事務局から小学校のあり方に関するアンケート結果を報告し、そののちに

1 これから生きていく子どもたちにとっての学びの環境とは

2 小学校のあり方について検討すべき課題は

の2点について協議を行いました。委員の方々からはそれぞれの立場から様々な意見が出されました。主な内容としては、統合するにしても地域の方の理解が必要であるということ、河北町の地域性・将来性を考えていくことが確認されました。

地区懇談会 下記のとおり実施しました。

令和4年9月29日	谷地西部小学区	24名	令和4年10月28日	北谷地小学区	11名
令和4年11月25日	溝延小学区	7名	令和4年12月16日	西里小学区	16名
令和5年1月20日	谷地南部小学区	12名	令和5年2月17日	谷地中部小学区	15名

小学校区にて懇談会を実施し、第1回から第2回検討委員会とアンケート結果の報告を行いました。参加者は全体で85名でした。質疑応答の中では、「町としての方向性を出してほしい。」「子どもの学ぶ環境をしっかりと整える。」「地域とのつながりを大事にする。」「統合のメリット、デメリットを整理する。」などのご意見をいただきました。

第3回検討委員会 令和5年3月27日 河北町役場 301 会議室

学区懇談会の報告と「今求められる学力」、文科省における「適正規模・適正配置」の考え方を確認したのちに、「河北町立小学校の適正規模・適正配置について」「小学校のあり方や将来の学校像等に対する本町の基本的な方針について」協議しました。その話し合いの中では、次の点があげられました。

＜河北町が目指す子ども像＞

自力で解決できる子ども

自立できる子ども

どんな場面でも力を発揮できる子ども

故郷を愛する子どもなど

＜目指す教育環境＞

・多様化に対応した学校

・子どもの実態に合わせた指導体制

・切磋琢磨できる環境

・安心安全な学校

・安定した教職員体制の確保

・文化を保存・継承していくための地域との交流

この目指す子ども像、目指す教育環境の2つに迫るための現状と課題を以下の通り整理しました。

- ・子どもが減少することで、できないことが多くなる。
- ・子どもの安全を守るためにも適正規模の考え方は大切である。
- ・地域と学校のつながりをどのように補うか検討が必要である。
- ・集団への適応が心配である。
- ・子どもの支援体制の構築が必要である。
- ・先生方の専門性、授業力の向上を図ることが大切である。
- ・教育環境の拡充・整備する必要がある。 など

また、第3回検討委員会において、学区懇談会の参加状況や検討委員会の内容を町民に広く周知することが必要であると考え、事務局からアンケート結果、地区懇談会の概要について広報かほくや町HPに掲載し周知依頼を行いました。

第4回検討委員会 令和5年6月9日 河北町役場 301 会議室

第3回の記録の確認を行ったあと、「河北町の子どもたちにとってどのような学校を」を協議しました。答申に向けて、現状維持の場合、段階的に統合の場合、1校に統合の場合を具体的に想定しそれぞれのメリット、デメリットを整理し、子どもの学びの環境について3グループで協議いたしました。また、今年度の各研修会で講師の方々からいただいたご意見や紅花メールで学区についての相談について共有しました。

協議を3グループで行ったところ、すべてのグループで1校に統合する考え方に集約されました。協議の具体的な話のなかでは期待される効果と解決していくべき検討事項について議論されました。その際、協議の参考資料として、事務局から令和5年5月1日現在の令和5年度の児童生徒数と右側の今後6年間の学校区ごとの新入生の数を基に、段階的な統合と1校にした場合の学校配置と学級数について一例が示されました。

<期待される効果として>

- ・多様な人間関係の構築、社会性を育む、互いに切磋琢磨できる環境が整備できる。
- ・リーダー性や自治力の育成、多面的、多角的な見方を養うことができる。
- ・複数の教職員による多層的な支援体制（生徒指導・学習指導）が整う。
- ・持続可能な学校規模の確保ができる。
→段階的統合では、再検討について改めて行わなければならない。
- ・人的・物的・財政面での教育資源を集中できる。
- ・PTA活動が維持できる。など があげられました。

<検討事項として>

- ・統合の時期について→5年以内がよいのではないか。
- ・学校間連携（目指す子ども像の共有と実現に向けて）を図る。
→子どもの考えも取り入れる。
- ・集団への適応が心配である。→子ども同志の関わりを充実させる。
- ・地域とのつながりを大切にする。
→地域の伝統文化の継承（町の活性化も併せて考える）地区の方の力も必要である。
- ・通学の安全確保に取り組む。→スクールバスを活用する。
- ・校舎の場所、新築、既存校舎の活用について検討する。

令和5年8月26日 第5回あり方検討委員会（町民参加型） どんがホール

第1回検討委員会から第4回検討委員会までの経過を報告したのちに、第4回検討委員会で話し合われた1校案について提案を行い、参加いただいた町民の方からご意見をいただきました。はじめに、小中一貫校と義務教育学校の違いについての質問があり、その後、意見交換を行いました。

- ・複数校ではなく1校にする。吸収合併ではなく一つにまとめる。
- ・河北町の一員として学んでいける環境が望ましい。
- ・子育て対策を含めて話をしてほしい。
- ・1校には反対。子どもが自分で歩いて行けるところにあるのが理想である。
- ・小さい学校できめ細やかな教育をしてほしい。教員だけでなくボランティアを募るなど考えてほしい。
- ・小さい学校では多様な指導体制が取れなくなる。
- ・なるべく早く統合してほしい。1学年で2名だけでは、友人・先生との関係性が課題である。
- ・先生方は、少人数でできる最大限のことをしている。1校にする今後の見通しを示していただくことで保護者は安心する。
- ・クラス替えで人間関係や不登校への不安が和らぐ。1校に賛成。通学の面でも一人になってしまう場合があり、スクールバスの活用があれば安心である。
- ・多様な人と触れ合う機会が作れないことが課題である。
- ・世の中の流れでは、保護者の責任で送迎していくようになるのではないか。
- ・ICTの活用を推進してほしい。
- ・学童・教育・子育ての一貫性を持った態勢を検討すること。
- ・統合となった場合、小さい学校の子どもたちがスムーズに学校生活に移行できるように取り組んでほしい。
- ・小中学校の入学時に、入学後の生活に様々な配慮をしていただいていることを感じている。

などの意見が出されました。

令和5年10月20日 第6回あり方検討委員会 河北町役場301会議室

これまで検討いただいた内容を事務局で章立てし、答申の内容について、各委員の意見を求めました。目指す子ども像に迫るために統合については1校とし、そのための配慮事項について各委員から目指す教育環境について意見をいただきました。

令和5年11月22日 第7回あり方検討委員会 河北町役場301会議室

前回いただいた意見を事務局で整理し、答申案を事前に各委員に配付しました。

事務局から、事前に配布した資料の説明を行い、その後協議を行いました。各委員一人一人から意見をいただき、答申に向けて文言を整理しました。協議終了後、委員長から最終決裁を委員長と副委員長に任せること、12月中旬に答申を行うことを確認しました。

資料4 河北町立小学校の再編の参考資料

基準日：令和5年5月1日

		令和5年度						入学年度					
		6年	5年	4年	3年	2年	1年	R6	R7	R8	R9	R10	R11
A	西里小	22	11	14	10	18	10	10	3	6	9	4	6
	溝延小	12	9	15	7	12	14	14	6	9	5	8	1
	谷地南部小	33	19	27	25	24	28	23	22	21	25	23	24
	人数	67	39	56	42	54	52	47	31	36	39	35	31
	学級数	3	1	2	2	2	2	2	1	2	2	1	1
		特支3（知2・病1）											
B	谷地中部小	55	55	69	58	71	45	66	53	38	34	29	31
	谷地西部小	6	5	7	4	4	4	6	6	3	0	2	1
	北谷地小	17	10	10	11	7	7	7	4	6	3	6	6
	人数	78	70	86	73	82	56	79	63	47	37	37	38
	学級数	3	3	3	3	3	2	3	2	2	2	2	2
		特支4（知2・情2）											
1校	人数	145	109	142	115	136	108	126	94	83	76	72	69
	学級数	5	4	5	4	5	4	4	3	3	3	3	3
	1学級当たり	特支（知3・情3・病1）						31	31	27	25	24	23

資料5

2 学校施設と児童数・教員数

数字は特別支援学級在籍児童を含む

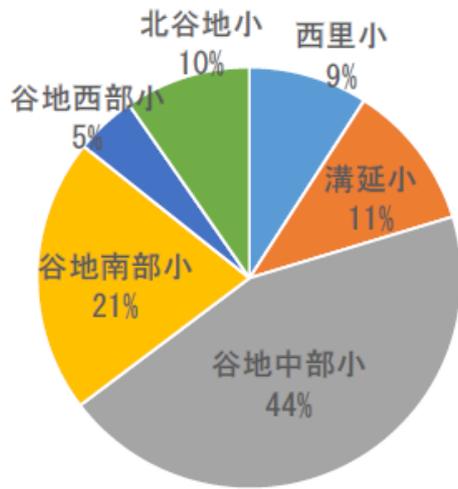
学校 (改築年度)	建築 年数	改築当時		現在 (令和4年5月1日)			6年後 (令和10年)			
		児童数	通常 学級数	児童数	通常 学級数	教職員数	児童数	通常 学級数	教職員数	備考
西里小 (S60)	36年	250	8	84	6	11	42	5	8	3・4模式
溝延小 (H4)	29年	256	11	69	6	11	60	5	8	3・4模式
谷地中部小 (H12)	20年	410	13	384	14	26	256	10	15	1～3年 単学級
谷地南部小 (H9)	24年	358	12	159	6	12	146	6	12	学年 単学級
谷地西部小 (S63)	34年	124	6	32	3	6	21	3	6	完全模式
北谷地小 (H7)	26年	179	7	66	6	11	32	4	7	3・4模式 5・6模式
河北中 (S54)	43年	860	21	444	15	26	408	14	24	1年：5学級 2年：4学級 3年：5学級

※6年後の児童数は見込み、学級数は、現行制度が継続した場合のものです。

※教職員数（校長、教頭、教諭、養護教諭）は本務者のみを計上しています。また、6年後の教職員数については、通常学級のみを対象にしています。

資料 6

アンケートの実施対象者について



- 実施期間 R4年7月1日～7月31日
- 実施対象
 - 1 就学前のお子さんのみを持つ保護者
 - 2 小・中学校で一番上のお子さんを持つ保護者
 - 3 町内各区3名（各区長より抽出）
- 調査方法

対象1・3	無記名 選択式・記述式 調査用紙回答
対象2	無記名 選択式・記述式 オンライン回答
- 調査数1409件
 - 回答件数（率）930件（66.0%）
 - 回答者割合

実施対象1	調査数218件	回答件数202件（92.6%）
実施対象2	調査数867件	回答件数461件（53.2%）
実施対象3	調査数324件	回答件数267件（82.7%）

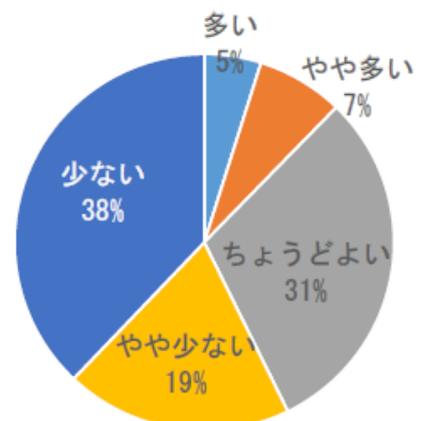
問 あなたの居住区小学校の現在の児童数について、どのようにお考えですか。
（「令和4年5月1日現在の河北町立小学校の児童数」を参考にしてください）

【1つ選択】

河北町立小学校の児童数

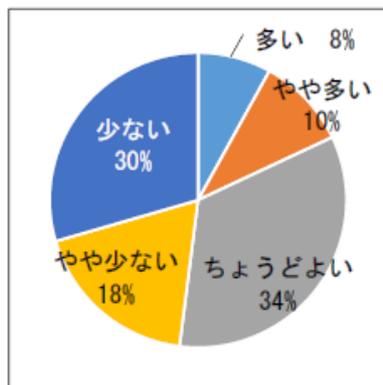
基準日 R4.5.1

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	学校毎合計
西里小学校	17	11	14	11	22	9	84
溝延小学校	12	7	14	10	12	14	69
谷地中部小学校	75	61	75	56	57	60	384
谷地南部小学校	24	27	26	22	34	26	159
谷地西部小学校	4	4	7	5	6	6	32
北谷地小学校	7	12	10	10	17	10	66
学年毎合計	139	122	146	114	148	125	794

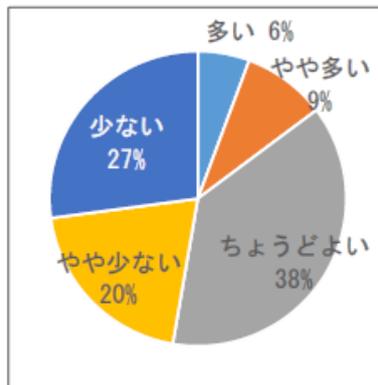


問 あなたの居住区小学校の現在の児童数について、どのようにお考えですか。
 (「令和4年5月1日現在の河北町立小学校の児童数」を参考にしてください)
 【1つ選択】

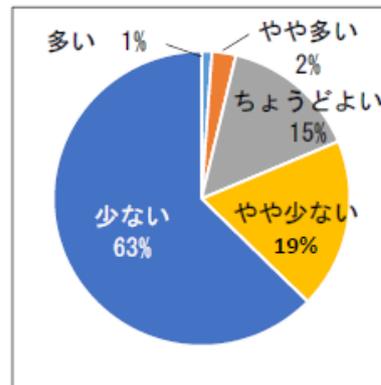
<未就学児保護者>



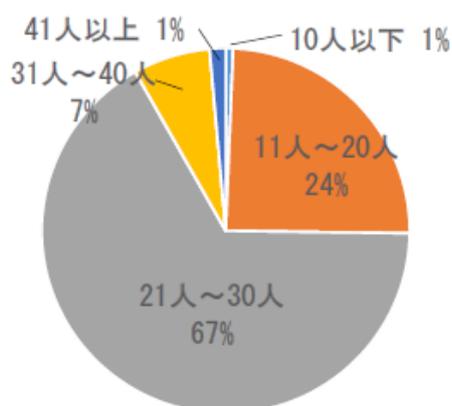
<小中学校保護者>



<地域の方>



問 小学校の1学級で望ましい児童数は、何人程度とお考えですか。【1つ選択】



学級編制について

(令和4年度「教育山形」さんさんプラン)

○通常学級

小1~小3は1学級 18人~33人
 【国35人以下】

小4~中3は1学級 21人~33人
 【国40人以下】

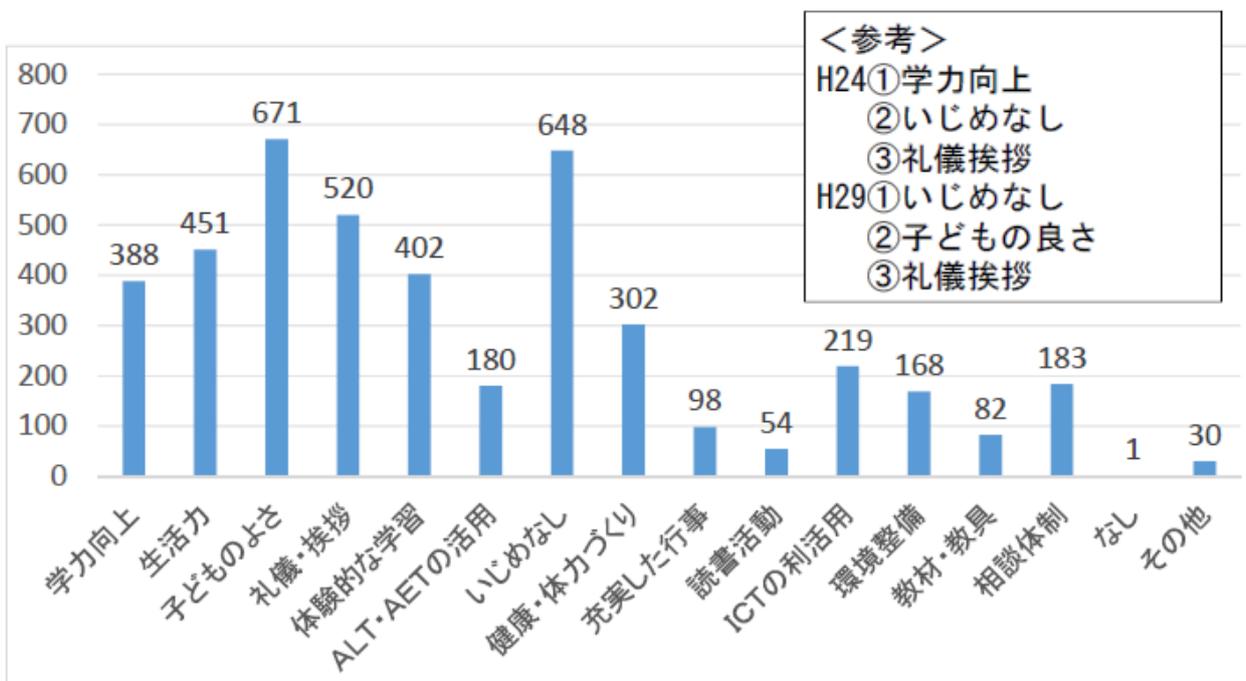
※子どもの社会性を育む観点から下限を設定している。

○特別支援学級

学級編制基準の引き下げ 6人
 【国8人】

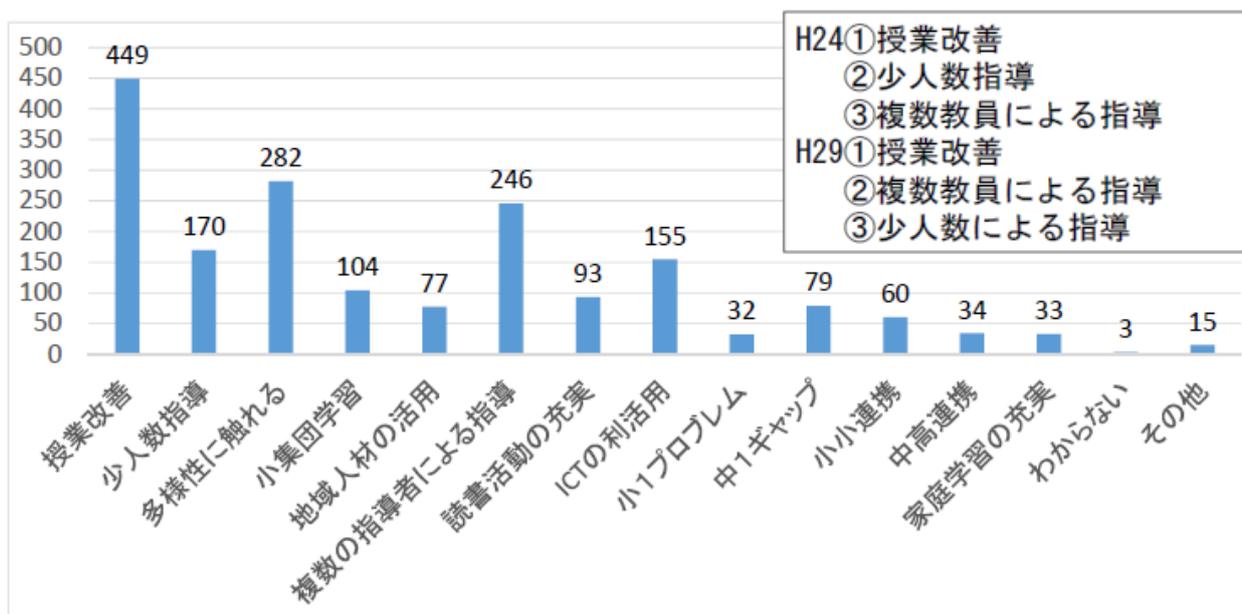
※学級の人数が7~8人の場合は1学級増加で常勤の先生を配置

問 子どもにとって、望ましい学校はどんな学校だとお考えですか。
【5つまで選択可】



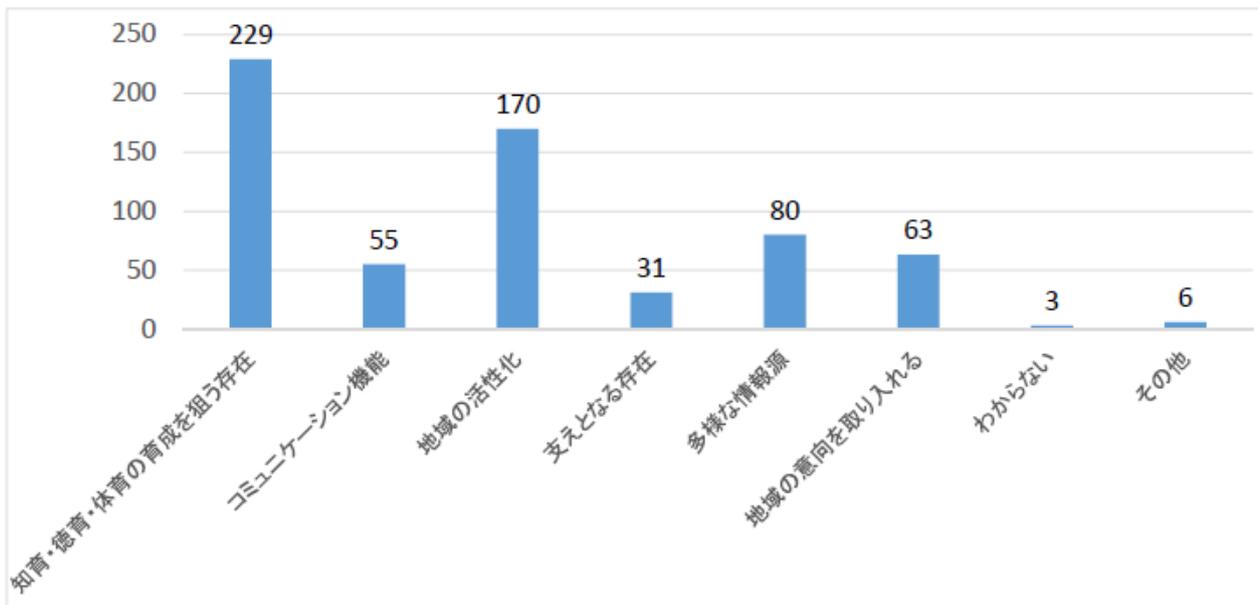
<未就学児・小中学校対象>

問 学校教育で「学力」を高めるためにどのような取り組みが重要だと思いますか。【3つまで選択可】

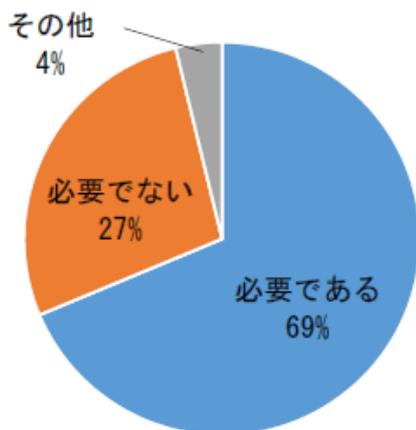


<地域の方対象>

問 あなたにとって地域の小学校はどのような存在とお考えですか。
【3つまで選択可】

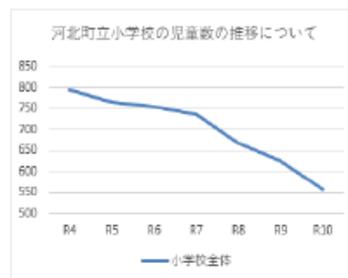


問 町内の小学校が将来より望ましい教育を行えるようにするために、学区の見直しや小学校の統廃合等に向けた検討が必要だとお考えですか。（「今後の河北町立小学校ごとの児童総数の推移」を参考にしてください）。【1つ選択】



今後の河北町立小学校ごとの児童総数の推移 基準日 R45.1

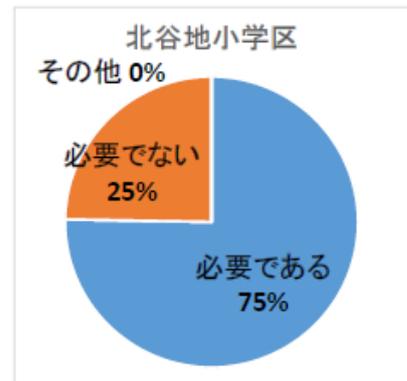
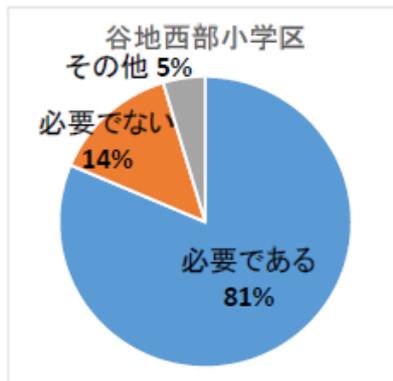
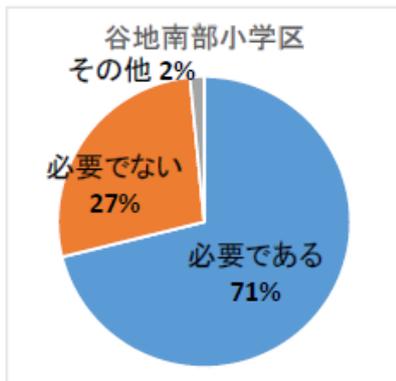
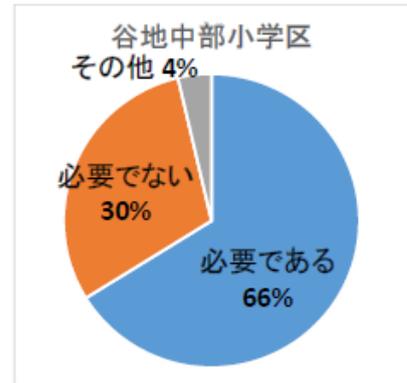
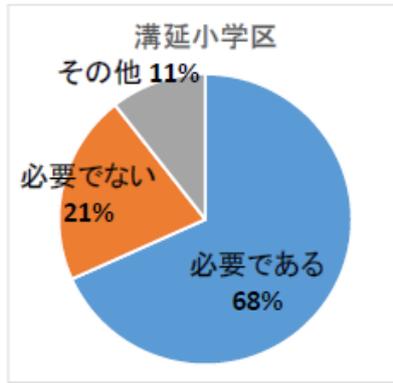
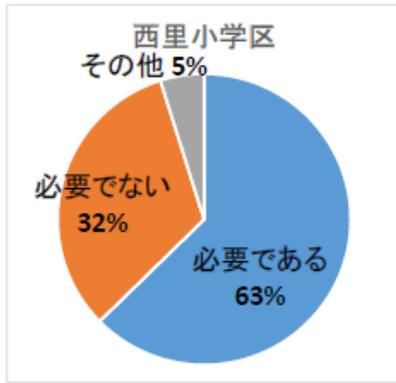
	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
百里小学校	84	85	73	65	57	54	42
清延小学校	69	68	71	67	62	62	60
谷地中部小学校	384	367	376	373	331	304	256
谷地南部小学校	159	152	152	153	149	148	146
谷地西部小学校	32	30	30	31	27	23	21
北谷地小学校	66	63	53	47	42	33	32
小学校全体	794	765	755	736	668	624	557



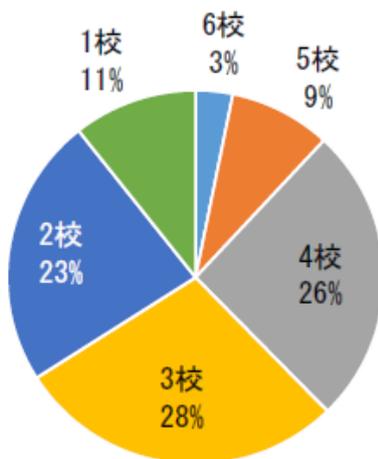
○表の色付き(太字)のところは複式学級の出現の可能性を示します。北谷地小は令和6年度から西里小は令和8年度から、清延小は令和9年度から複式学級となる可能性があります。
※複式学級とは、他の学年の児童と合わせて16人以下の時は、1学級となり1人の教師で2つの学年を指導します。ただし、1年生を含むときは8人以下となります。

<その他の意見>

- ・わからない
- ・学区の見直し
- ・義務教育学校でアピール
- ・児童数に差がありすぎる
- ・検討するためのデータが足りない
- ・人数によるメリット、デメリットは
- ・統合は必要だが、地区に学校は必要
- ・町が決めること
- ・少人数と統廃合を一緒に考えることに問題がある
- ・人数で考えると1校、しかし地域とのかかわりも検討すべき
- ・子どもの学習環境が優先だが、地区に学校は必要である
- ・他市町と連携する
- ・通学距離が問題



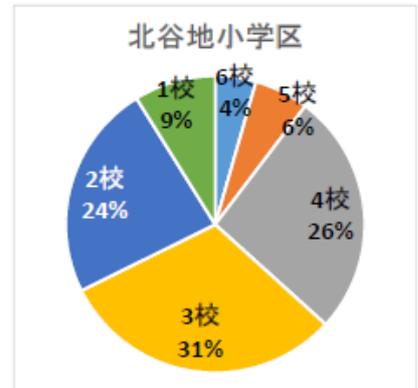
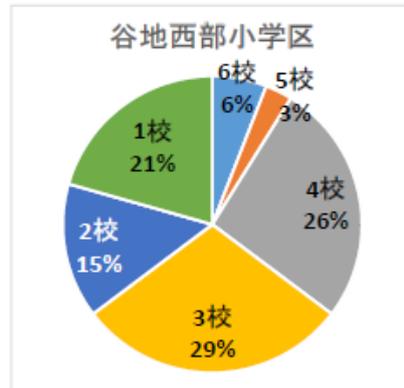
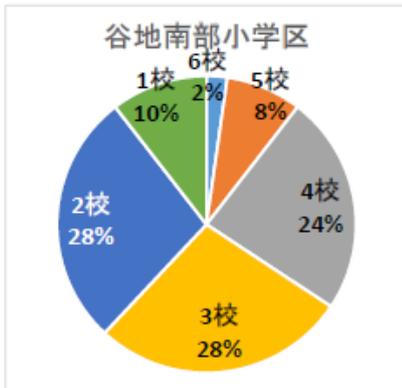
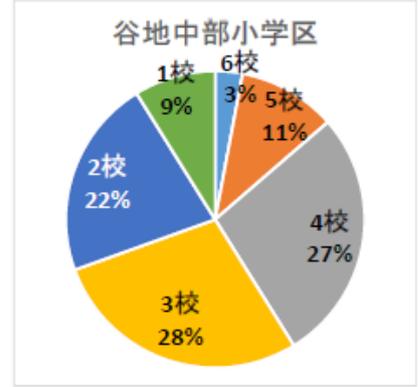
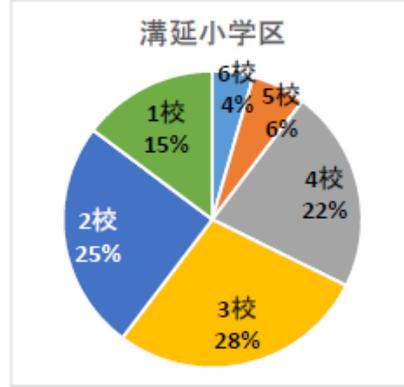
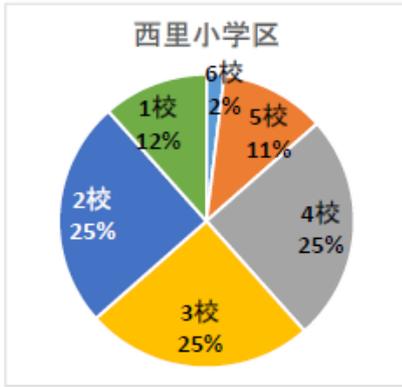
問 「必要である」と答えた方に伺います。河北町全体で将来の学校像は何校と考えますか。また、その理由を書いてください。



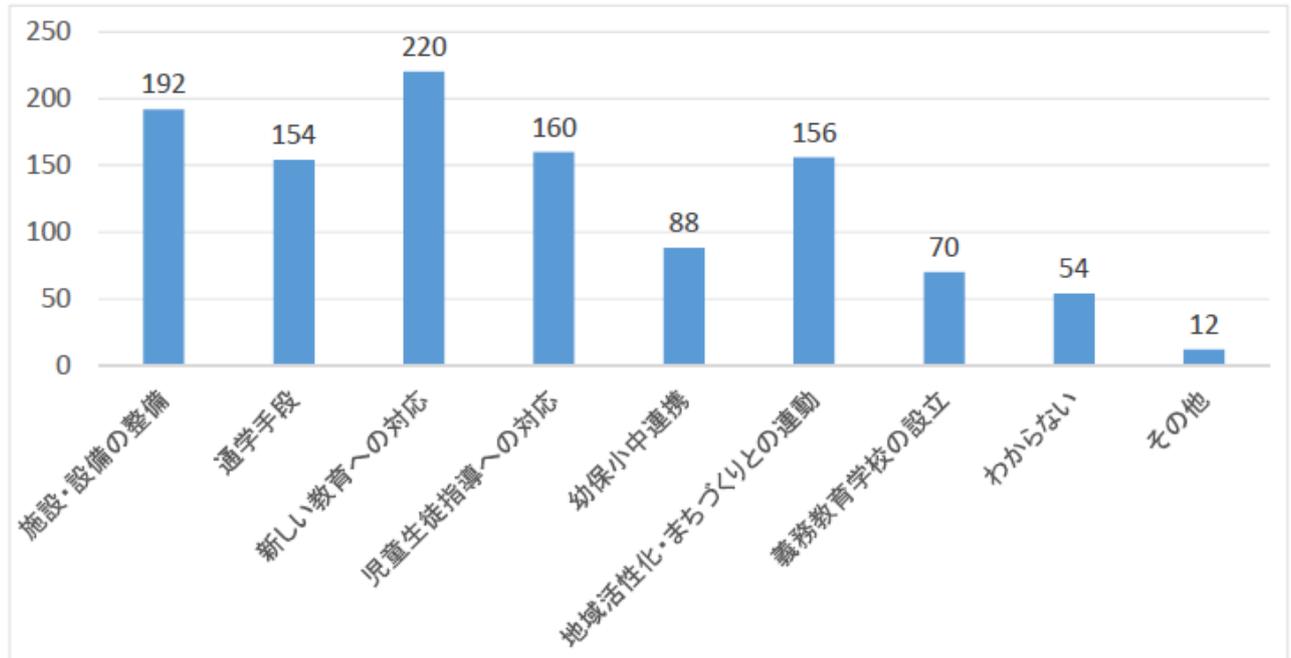
6校：学区の見直し 人数の平均化 少人数学級編制
特認校 6校でも少ない 地域に学校は必要 学区の見直し

5校：谷地西部小と北谷地小の統合 徐々に合併 50人以下は合併複式解消 通学距離 小中のギャップ 学校の維持費 谷地中部小と谷地西部小の統合

4校・3校・2校：1校
地域性を考慮した統合 クラス替えができる学級規模 人間関係の固定化 複式の解消 人数の偏りをなくす 多様性を高める指導 スクールバスの活用 教育資源の集中(人・物・金) 施設の維持管理費 集団での学びの確保 互いに高めあえる環境を作る 1学年2学級は必要 同一学年での教育活動の充実 幅の広い人間関係 中学校進学への不安 小中一貫校(中学校建設に合わせて併設) 義務教育学校 PTA活動 切磋琢磨 社会性の向上 止まらない少子化 将来的には1校 令和20年を見据えて



問 「必要でない」と答えた方に伺います。これからの町内小学校の望ましいあり方を検討するために、特に重視すべき点はどのようなこととお考えですか。
【3つまで選択可】



問 その他、河北町立小学校のあり方全般についてお考えがあればお聞かせください。

<行政・教育行政に関すること>

魅力ある街づくり・転入者増の取組（１９） 人口減少・少子化対策（１２） 子育てしやすい環境を（８） 将来を見据えた統合（２） 若い方々の考えに沿った政策決定
河北独自の教育政策 学童の連携・充実（２） 行政のこれまでの対応・検討の遅れが問題（８） 行政主導で決定する 維持管理費（４） 教育予算の集中（５）
費用対効果 小学校の活用法（４） 図書館の充実 放課後塾 家庭支援 特認校 若い方が議員

<教員等に関すること>

先生方の研修機会の充実確保（６） 先生方のゆとり（適正規模・適正配置）（１１）
差のない学習内容・指導 業務改善・軽減（４） 先生方の業務量のバランス（２）
子ども好きな先生がたくさんいる学校 専科教員の配置 学校組織の充実

問 その他、河北町立小学校のあり方全般についてお考えがあればお聞かせください。

<学校教育に関すること>

社会性・多様性を育む教育（２６） 楽しい・いきいき・のびのび育つ教育（２４）
個に応じた指導の充実（２１） 主体性を引き出す・伸ばす教育（６） 互いに磨きあう教育（６） 魅力ある学校づくり（７） 体験的な学習・課外活動の充実（６）
自己肯定感を高める教育（２） 子供の実態に合った教育（２） 地元の良さを生かす教育 時代の変化に対応できる教育（６） 少人数教育 前例にとられない取り組みを いじめ防止、安心・安全な学校（３８） 発達障がいへの理解・対応（５）
平等な学校（２） 基礎学力が身につく学校（２） ICTの活用・充実（１２） 学力向上・探究学習の充実・協働学習の充実（７） 複数の指導者による指導体制 補充的な学習 グローバル教育・異文化交流（３） 語学学習の充実（５） キャリア教育の充実（３） 授業参観を増やしてほしい（２） 社会に開かれた学校 部活動の時間 土曜日授業 学校行事の減少 学校間・学年間交流（３６） 学年ごとの活動を充実（６） 道徳教育の充実 思いやりを育む教育（５） 挨拶・礼儀を教える（４） 郷土愛の醸成（２） 伝統行事・地域との連携（８） 中学生の地域貢献活動の推進 厳しさだけの学校では成り立たない 町立学校の良さを発信 熱中症対策・紫外線対策 幼保小の連携 学校・家庭・地域の連携 体力向上

問 その他、河北町立小学校のあり方全般についてお考えがあればお聞かせください。

<統合方法に関すること>

早期対応・統合（27） 前向きに検討（2） 統合しない選択肢はない メリット・デメリットを丁寧に説明（18） 慎重に検討・議論（5） 地域の元気・学校づくり・連携・理解（13） 地域の理解・若い方の意見を（3） 歴史的な背景を重視
小中一貫校・義務教育学校（8） 今後を見据えて1校に（6） 小中併設（2） 新校舎建設（2） 町の総力を挙げた学校 適正学校・適正規模（4） 教育の機会均等（3） 学校間の学力差（3） 時代に合ったあり方 複式の解消 子どもの環境を考えた環境づくり（8） 小規模校の統合（3） 児童数の多い学校から小規模校に異動する 2学級を確保する 町の規模に対し学校数が多い（2） 1町1校にはしてほしい 子供の意見も聞く・子供の立場で考える（4） 統合される学校への配慮（2） 学区の再編成（16） 学区廃止・学区外就学（4） 統合後の地域連携を継承 谷地西部小・谷地中部小の統合（2） 谷地中部小・谷地南部小以外の統合 谷地中部小・谷地西部小・北谷地小と谷地南部小・溝延小・西里小の統合 谷地西部小・西里小・北谷地小の統合 谷地高との連携、谷地高を含めた再編（2） 西里小・谷地西部小・北谷地小の統合、溝延小・谷地南部小の統合 学校の現状維持（2）

問 その他、河北町立小学校のあり方全般についてお考えがあればお聞かせください。

<教育環境に関すること>

通学・通学距離の不安、安全確保（41） スクールバスの活用（6） 学区外通学（2） 小中の環境の変化に対する対応（7） 少人数でより主体的になれる環境づくり 教員の目が届きやすい人数 少人数学級も多学級もよさがある（9） 教育活動の学校間の差・平等な教育環境（6） 教育の機会均等（2） 学校規模で取組める運動に差がある 学年ごと授業が大切（2） 友人と切磋琢磨できる環境づくり（2） 6年間同じ学級では、幅ができない たくさんの友人と知り合えたほうが良い 複式のよさ（3） 複式の解消（3） のびのび育つ環境・力を発揮できる環境づくり（3） 教育相談体制の充実（4） 幼稚園保育園の統合に合わせた取組み 教育資源の集中（2） 子どもが地域に密着し交流できる環境づくり おいしい給食 給食センターの併設

<その他>

家庭教育の充実（2） 学校・家庭の連携強化 近くに小学校がないのは不便 小学校入学を楽しみにしている 他地区の児童もどろんが祭りに参加させてほしい タブレットの弊害（3） 小規模だと保護者の負担増になる 地域の良さを生かす 豆奴など他地区の子供に広げる 学校は様々対応いただいている 地域間交流（2） 小学校は地域の学校